

琉球大学学術リポジトリ

座間味村におけるイタチ事情

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/21030

座間味村における イタチ 事情

(1) イタチの繁殖状況

座間味島の繁殖数は推定 800匹とされておりませんが、阿嘉島および慶留間島での繁殖はありません。野火の被害ではないかと考えられます。

(2) イタチの生息場所

主に山野にすんでいます。部落内の石垣付近で廻遊しているのもよく見かけます。

(3) 家畜家禽の被害状況

導入当時は中ヒナに或程度の被害はありましたが現在はありません。少々あるとしても農作物にネズミが与える被害と比べたら微々たるものです。

(4) 農作物の被害について

イタチは肉食動物であるので農作物に全く被害はありません。イタチ導入後はネズミは勿論ヘビ類の生息は許されません。季節的に害鳥の被害を少々受ける程度です。

(5) ネズミの駆除に対する効果

イタチ導入後は座間味島の野鼠の駆除は効果があがっています。農産物の増収は村民からよこばれている。然し阿嘉島、慶留間島では繁殖がないため野鼠の被害を受けていますので座間味島より導入する計画である。

(以上座間味村長よりの報告)

5. 防除上配慮すべき事項

1) ネズミの生息個体数の推定 ネズミの駆除に当たってまずその種類を確認し、生息密度を推定する必要がある。日中1匹発見したときは、家ネズミでは10~15匹、野ネズミでは20匹以上生息しているといわれている。

2) ネズミの存在の確認方法

イ) ネズミは常に一定の道路を決めて行動している。従って畑地(畦畔)においても、また屋内(雨戸、障子、壁の下沿線)においてもはっきりした行跡を残すのでその往來を確認することができる。

ロ) 天井裏の騒音、鳴き声によってその存在を知ることができる。

ハ) 糞尿の鮮度と臭気によっても判然する。すなわちネズミの住んでいるところは特有な臭気を発するのでネズミの存在が確認できる。糞が軟くて光沢のあるものは新しい糞である。ドブネズミは1日25~18個の糞を出すとされており、糞の状況によって近くに住んでいるネズミの数を推定することができる。

ニ) ネズミは畦畔や土手に孔道を設けて、あるいは石垣の穴を利用して巣をつくる。その孔道に軽く土をかぶせておき、1~3日にその孔道が開いておればネズミのいる証拠である。

ホ) その他ネズミのかみ跡によっても判断できる。通常キビ畑では周辺部には被害がないのに圃場の中心に入ってみると甚大な加害を受けている場合が多い。

3) ネズミは発情間中 殆んど摂食しないので、毒餌の使用は家ネズミの場合天井裏の騒音がなくなってから行るのがよい。

4) 防除の時期は ネズミの繁殖期直前、直後ならびにネズミの好む農作物がないかあるいは少ない時期がよい。繁殖状況から見て少なくとも年4回の駆除週間を設ける。

5) ネズミは 一昼夜におよそ10Km歩き廻るとされており、行動半径が広いので局地的な駆除は効果が少ない。

6) ネズミの発生を見た場合 単に毒餌の投与を急いでも所期の目的を達することはできない。勿論応急手段として個人あるいは組合で毒餌駆除